

フランス革命前に 逆戻りしたヨーロッパ



1814年
1848年

混乱したヨーロッパ情勢を收拾する
ウィーン会議は、大国優先の
国際秩序を選択したが、自由主義の
台頭は抑えられなかった。

「大国の協調」を優先した ウィーン体制

1814年
秩序の回復をはかる
ウィーン会議

90王国、53公国の代表が参加。オーストリア外相メッテルニヒが主宰。

フランス革命
ナポレオン戦争
による混乱

「会議は踊る。されど進まず」

1815年3月
ナポレオン復活

エルバ島から脱出してパリに帰還。再び皇帝となるも、ワテルローの戦いで敗れ、セントヘレナ島へ配流。

1815年6月

ウィーン議定書調印

ブルボン朝(フランス、スペイン、ナポリ王国)復活、ドイツ連邦の成立、イギリス、ロシアの領土拡大などを規定。

ウィーン体制(正統主義)

ドイツ連邦 1815年

35の君主国と4つの自由都市から成る、ドイツ人の国家連合。オーストリアとプロイセンの協調による、ドイツの現状維持が目的。

神聖同盟 1815年

ヨーロッパ各国君主が参加
自由主義とナショナリズム抑圧のため、イギリス王、オスマン皇帝、ローマ教皇を除くヨーロッパの全君主が結んだ同盟。

四国同盟 1815年

イギリス、ロシア、オーストリア、プロイセン
大国の協調による自由主義抑圧。1818年フランスが加わり五国同盟に。

ウィーン体制に反する動き

ウィーン体制に反発する自由主義とナショナリズムの運動が湧き起こった。

1817~19年

ブルシェンシャフト運動

大学生らが憲法制定と国家統一を求めた運動。ドイツ全土に波及したが、暗殺事件を機に禁止される。

1825年

デカブリストの乱

ロシアの青年貴族士官の蜂起。専制打倒、農奴解放などを訴えたが、準備不足もあって鎮圧された。

1820~23年

スペイン立憲革命

軍人リエゴを中心に自由主義政権を樹立するが、列強の介入により崩壊。

1821~29年

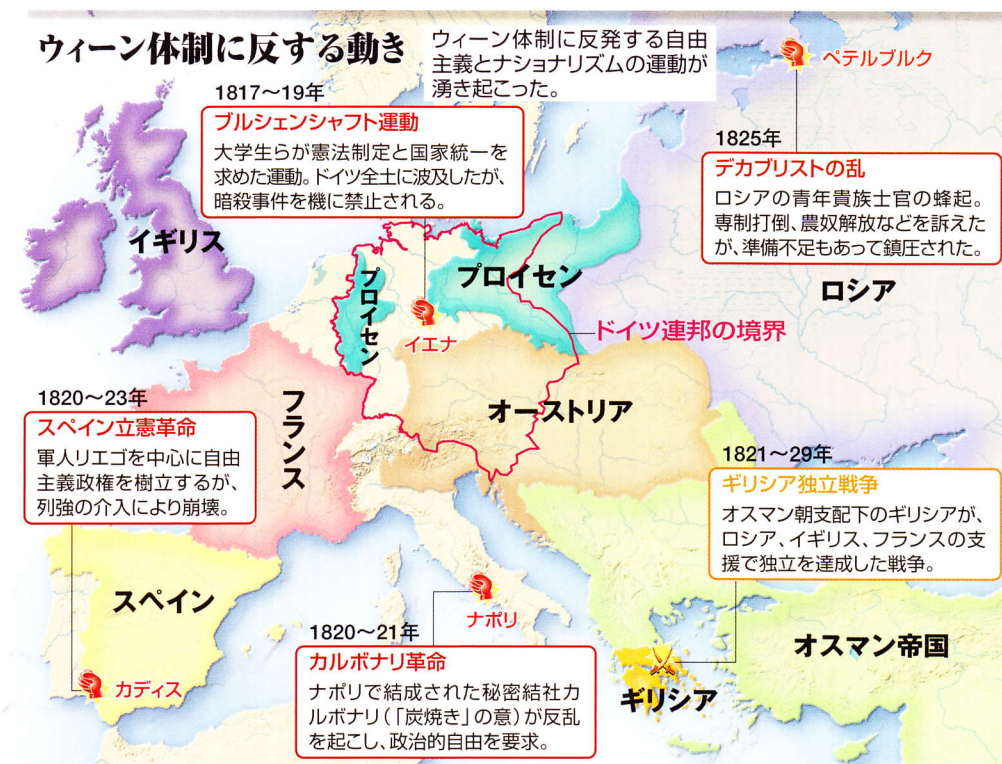
ギリシア独立戦争

オスマン朝支配下のギリシアが、ロシア、イギリス、フランスの支援で独立を達成した戦争。

1820~21年

カルボナリ革命

ナポリで結成された秘密結社カルボナリ(「炭焼き」の意)が反乱を起こし、政治的自由を要求。



1814年にフランスのナポレオンが退位すると、フランス革命(P100参照)以来の混乱を收拾するため、オスマン帝国を除く全ヨーロッパの代表が参加し、ウィーン会議が開かれた。オーストリアの外相メッテルニヒが議長を務めたこの会議は、各国の領土的野心が交錯し、「会議は踊る。されど進まず」と評されたように、紛糾を極めた。フランス代表タレーランはこの状況を利用して、ヨーロッパをフランス革命以前の政治体制と国際秩序に戻すべきとする**正統主義**を主張し、フランスの領土を維持することに成功した。会議は翌15年、ナポレオン再起の報に驚いてようやくウィーン議定書の調印にこぎつけた。その内容は、大国が主導して伝統的な体制を維持し、ヨーロッパで盛り上がり始めた民主主義や自由主義を求める運動を抑え込もうとする反動的なものであった。この体制を**ウィーン体制**という。

ウィーン議定書では、フランスとスペインでのブルボン朝復活、ドイツ連邦の成立、ロシア皇帝のポロランド王兼任などが決められた。また、ロシア皇帝の提唱による**神聖同盟**と、イギリス、ロシア、プロイセン、オーストリアの軍事・政治同盟である**四国同盟**のちにフランスが加わり**五国同盟**が締結され、ウィーン体制を支えることとなった。

しかし、フランス革命からナポレオン戦争を通じて芽生えた**自由主義**、ナショナリズムの台頭を抑えることはもはや困難で、ヨーロッパ各地でウィーン体制を揺るがす動きが起こるようになる。

Key Word

ブルボン家

フランスやスペインに王朝を築いた名家。14世紀にフランス王ルイ9世の孫ルイがブルボン公を名のったのが始まり。16世紀にアンリ4世がフランス王に即位してブルボン朝を開く。フランス絶対王政の最盛期を現出したが、1830年の七月革命でフランスのブルボン朝は終焉。スペインのブルボン朝は1700年に始まり、数度にわたる中断を経て現在も続いている。